

ヤンゴン素描 50

賢者ヴィドゥーラ本生 (その2)

山形洋一

第六場：地上、クル国王宮前

ブンナカはブラーマンに化けてカッチャーヤナと名乗り、コラビャ王にサイコロ勝負を挑みます。賭ける品は宝珠と天馬。宝珠は転輪聖王（世界帝王）にふさわしい品で、覗くと世界の様々な場面が映し出されます。またシンド産の天馬は目にも留まらぬ速さで城壁の上を駆け巡り、池の水面を駆け抜け、ブンナカの差し出した手の上に止まります。王はこの二つの宝が欲しくなり、負けたら自分の体と王位以外、何でもくれてやると約束します。

第七場：地上、クル国王の賭場

王はかつて賭けに負けたことがありません。それは、前の世で彼の母親だった女神が姿を消してそばに付き添い、王が勝つようにサイコロを加減していたからです。それに気づいたブンナカは、目を怒らせて女神を追い払い、サイコロを支配します。

第八場：地上、クル国王宮

賭けに勝ったブンナカが賢者ヴィドゥーラを所望しますが、王は渋ります。

「そない言われたかて、大臣はわしの持ち物やないし。わしの一存でやるわけにはいかん」

「それ、ほんまでっか？ まあご本人に聞いてみるのが、一番確かや」

王様としてはヴィドゥーラに「わては自由人でおます」と言い逃れてくれることを期待したのですが、正直者の大臣は嘘がつけません。

「わては生まれついで奴隷でおます」と答えてしまいます。

「ほれ見てみい。奴隷は持ち物、今度はわしが主人じゃ！」とブンナカは小躍りします。

がっかりした王様も気を取り直し、大臣に最後の法話を所望します。題して「在家の務め」。

ヴィドゥーラは、

「よその嫁はんはんに手を出したらあきまへんでえ」と言った、具体的で役に立つ教訓をどっさり残して行きます。

法話が終わったので、ブンナカはヴィドゥーラを引っ立てようとしませんが、

「ちょっと待っとくなはれ」と大臣が言います。

「えろうすんまへんけど、三日だけ待っとくなはれ。家の者らが困らんよう、あれこれ指図せなあきまへんよってに」

なるほどもっともだと、ブンナカは思いました。

第九場：地上、ヴィドゥーラの家

「ほなら三日間、わてとここにどうぞお泊まりやす」

と案内されたのは立派な館。それも一か所ではなく、冬用、夏用、雨季用と三か所ありましたが、そのうちどれに泊まったかは、明らかにされていません。ブンナカは五百人の美女歓待を受けました。その舞い踊りの艶やかなこと。鯛や平目なんぞと大違いです。

その間にヴィドゥーラは息子たちを集め、「大臣養成研修」を行います。王様の妻妾と気安く口を聞くな。王様より派手な服は着るな。親しくされても図にのるな。持ち物に手を出すな。図に乗って王様をないがしろにしたら、首が飛ぶでえ、と声をひそめて伝えます。

第十場：空中

約束の三日が経ち、ブンナカは自慢の天馬もまたがり、ヴィドゥーラには尻尾につかまるよう言います。そうして空中に飛び上がると、馬を縦横に駆けさせ、ヴィドゥーラを岩や木にぶち当てて殺そうとします。心臓だけ持って帰るなら殺した方が手っ取り早い、と考えたのです。でもヴィドゥーラは前世の功德のお陰で、岩にも木にも当たりません。

「これでもくらえ。これでどうじゃ」

ブンナカは様々な荒技を繰り出しますが、ヴィドゥーラは平然として尋ねます。

「お若いの、あんた何でワシを殺そうとしはるんや？」

ブンナカは夜叉である身分を明かし、龍王に頼まれたことなどを語ります。

「これやから若いもんはかなわん。龍王のお妃が欲しがっとるのはわての心に蔵うたある知恵のはずやのに、わてのハツが食いたいんやと？ えらい勘違いや」 そう思ったヴィドゥーラはブンナカに、

「わてを殺す前に、『善い人間のとるべき道』について聴きなはらんか」と提案します。

第十一場：カーラーギリ山頂上

ヴィドゥーラの強運に感心したブンナカは、その教えを聞くことにします。カーラーギリ（黒山）の山頂にヴィドゥーラを下ろし、求めに応じて沐浴させ、着替えさせ、食物を与えます。

「善い人間の道は三つ、清らかな手を焼くな。友を裏切るな。不貞な女に惑わされるな」

「謎々でっか、それ。もっと分かりやすう教えとくなはれ」

「一宿一飯の恩を忘れたらきまへん。欲しいものを手に入れたら男には目もくれんような女の頼みを聞いたらあきまへん」

「なるほど、あんたには三日も世話になったのに、えらい申し訳ない。堪忍しとくなはれ。もう龍女のことなんぞどうでもようになった。これからお宅へお送りいたしますわ」

「いやいや、龍族に教えを広めるのもわての務めだす。龍宮には連れとくなはれ」

第十二場：龍宮

こうしてヴドゥーラは竜宮に到着し、竜王の歓迎を受けます。妃も欲しいのはハツでなく知恵だったと打ち明け、皆でありがたい法話を聴き、ブンナカは美しい龍女を娶ります。

第十三場：クル国王宮前

ブンナカは天馬にまたがり、前にヴィドゥーラを、後ろに龍女の新婦を乗せ、龍宮から地上に向けて飛び上がります。王様は前夜の夢で、ヴィドゥーラの帰還を知っていたので、国庫にある宝物を国民に分け与え、皆で大歓迎会を催しましたとき。

めでたし、めでたし。

以下は近著の紹介です。アマゾンでも扱っています。

